



担当：宮城県水産技術総合センター 環境資源部
マアナゴ葉形仔魚（ノレソレ）の来遊状況について

宮城県はアナゴ類の漁獲量が全国的にもトップクラスで、最近年では平成14～16年と平成18年に全国第1位でした¹⁾。アナゴ類には、マアナゴ、イラコアナゴ、クロアナゴなどの種類がありますが、なかでもマアナゴは淡白で上品な味わいから老若男女を問わず人気があります。

このようなマアナゴですが、その生態は謎に包まれています。最近になって、沖ノ鳥島南方の九州-パラオ海嶺上がマアナゴの産卵場の1つであることが分かってきたところ²⁾。産卵場から孵化した後に、マアナゴは葉形仔魚（レプトケファルス：通称ノレソレ）（図1）となって黒潮に乗り、日本各地の沿岸域に到達します。年によって差はありますが、宮城県には2～6月に来遊します。宮城県のマアナゴの漁獲量は、ノレソレの来遊状況によって左右されることがこれまでの調査で分かっていて、特に仙台湾では2年後の漁獲量に関係すると考えられています³⁾。このため、当センターでは、ノレソレの来遊状況を調査することで、マアナゴ資源管理のための基礎資料として活用しています。

平成24年のノレソレの来遊状況は、例年と同様に、石巻湾内の調査定点2ヵ所で、ソリネットを用いた採集試験（5分曳き）により把握しました。調査は平成24年4月から7月にかけて計5回実施し、図2はその結果を示したものです。今年は5月14日の2回目の調査で仙台湾へのノレソレの来遊が確認され、その後、最終の7月まで採捕されました。この採捕パターンは時期的には例年どおりといえます。一方、採捕尾数については、7月5日の採集試験で今年最大となる16尾が得られました。この尾数は最近10年間では3番目に多い値となっており、今年来遊量は平年と比べて高い傾向にあると考えられます。

調査期間をとおして採捕されたノレソレの変態過程はいずれも「変態初期」で、マアナゴとは想像しがたい姿をしておりますが、時間経過とともに、私たちがよく知る形に変わります（図3）。今後は、来遊したマアナゴを適切に管理しながら漁獲していくことで、持続的なマアナゴの利用を進めることが望まれます。

最後に、仙台湾のマアナゴはこれから漁の盛期を迎えます。暑い日が続きますが、仙台湾の美味しいマアナゴを食べて、暑い夏を乗り切ろうではありませんか。

<引用文献>

- 1) 農林水産省. 漁業養殖業生産統計年報（1995～2010年）
- 2) Fisheries Science 電子版 2012年2月13日付 doi : 10.1007/s12562-012-0468-6.
- 3) 高橋清孝. 東北底魚研究第26号（2006年）.



図1 マアナゴ葉形仔魚(レプトケファルス)

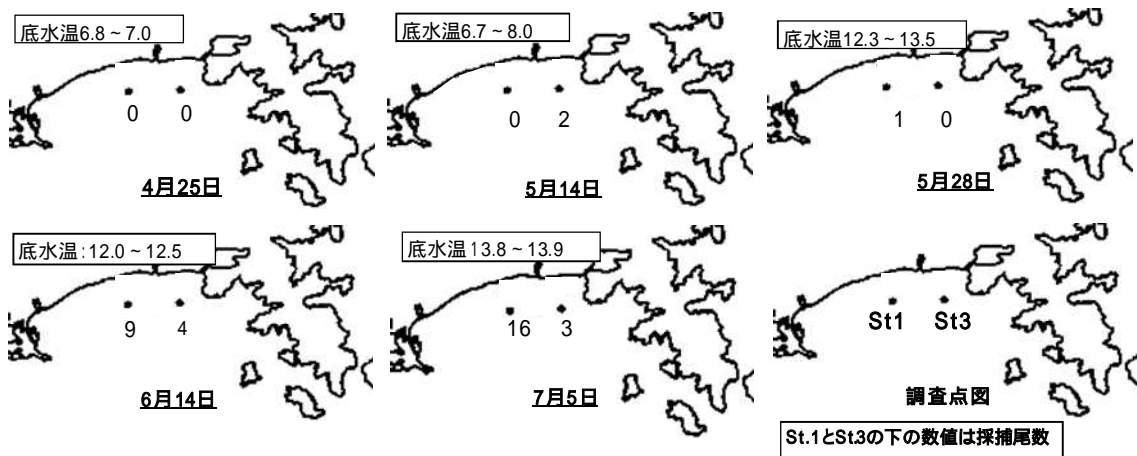


図2 マアナゴ葉形仔魚(ノレソレ)の採捕結果

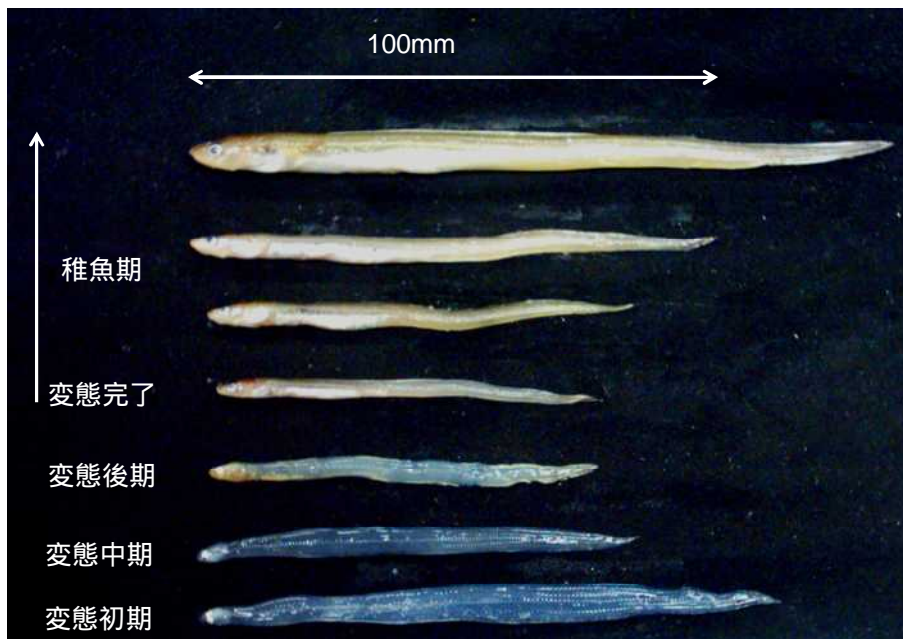


図3 マアナゴ仔稚魚の変態過程